

3 地域資源を活かした地域営農システムの構築

【成果の要約】

- 1 各地区で話し合い活動を通じて地域計画の見直しを行った。
- 2 耕畜連携の改善（時期・作業内容等）を支援し、新たに5戸（89a）のさとうきび農家が参加した。
- 3 さとうきび受託調整組織「与論島さとうきび受託組合」の組合員が3人増え、オペレーターの充実につながった。

1 対象

地域計画作成地区（和泊町21地区、知名町22地区、与論町3地区）

JAあまみ与論地区さとうきび部会601人、与論町和牛改良組合320人、

与論島さとうきび受託組合9人（調苗班7人、植付班5人、管理班7人）

2 課題を取り上げた理由

- （1）農家の減少や耕作放棄地の拡大が進んでいるが、地域で守り続けた農地を次世代に引き継ぐために、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」が策定されたが、ブラッシュアップが必要である。
- （2）与論島のさとうきび農家は、堆肥の未利用や労力不足による管理作業の遅れにより収量が低下している。また、生産牛農家では家畜糞尿の有効活用と自給粗飼料確保が進んでいない。そこで、堆肥利用並びにさとうきび後作を活用した自給粗飼料の確保を進めた耕畜連携システムを検討し、地域農業の生産性を高める必要がある。
- （3）与論島のさとうきび生産は、高齢化や担い手不足により、植付けや管理作業の委託面積が増加してきているが、受託者不足や収穫作業との競合から、作業が遅れることによる単収低下が問題となっており、受託調整組織を活用した適期管理が必要である。

3 活動内容と成果

（1）地域計画実行支援

各地区で地域計画の見直しに向けて協議を実施した。毎年継続した話し合いを行うことで地域の担い手・農地・畑かん等様々な意見の交換ができた。参加者は将来の地域農業のあり方について理解を深めている。

併せて目標地図の見直しを行い、地域農業の将来像について考え、新規就農者や認定農業者等の担い手へのほ場の貸借・使用改善が進んだ。



地域計画・目標地図見直し

（2）耕畜連携体制の確立

ア 耕畜連携活動検討会

耕畜連携実証グループで前作の経過や課題について検討を行った。ほ場のスムーズな受渡しには、さとうきび農家と畜産農家が事前に作業時期の厳守等について連絡・調整を行うことの重要性を再確認した。



耕畜連携活動検討会

また、堆肥活用方法やスケジュールの改善等も検討し、町製造の堆肥利用や雑草対策を実施することとした。

イ 耕畜連携マッチング説明会

今作の耕畜連携スケジュール（1月中旬までにさとうきび収穫→2月に牧草をは種→牧草栽培後は堆肥を投入して耕うん後8月下旬にさとうきび農家へほ場を返還）を確認して、新たなさとうきび農家5名と生産牛農家4名でマッチングを行い、スムーズな耕畜連携ができるように情報交換を行った。



耕畜連携マッチング説明会

(3) さとうきび受託調整組織の活動支援

令和6年12月設立された「与論島さとうきび受託組合」に新たに3名が加入し12名で活動を行った。

受託作業意見交換会では、今年度の受託内容について活発な意見が出され、植付け作業の降雨等を考慮した適期作業・精度で調整が難しい面等の課題が出され、今後も引き続き課題解決に向けた支援が必要であった。



受託作業意見交換会

4 今後の課題

- (1) 地域計画見直し支援
- (2) 耕畜連携の普及と連携体制の充実
- (3) 「与論島さとうきび受託組合」若手オペレーターの育成，組織活動充実

5 担当した普及職員（○印はチーフ）

○満吉，川野，水迫，松田，市来，（中野，田中）